

枝虫材を活かしたデザイン

地域の桧を活用した家具・空間提案

— 学生コンテスト 2024 —

主催：木造都市研究会「木愛の会」 協賛：総合資格学院

協力：株式会社イトーキ、あいちの木で家をつくる会、株式会社杉生

日本は国土の3分の2が森林であり、その4割ほどが建築材料として使用する目的で植えられた人工林です。建築用木材として使われる国産の杉・桧に「枝虫材」と呼ばれるものがあることをご存じでしょうか。人工林の手入れをする中で、節の無い木材を取るための枝打ちがなされず、枯れ枝にスギノアカネトラカミキリという虫が産卵し、幼虫となり（成虫は外へ出る）木部を食べた痕が食害として木材の表面に現れます。以前より日本各地でこのような食害は確認されていましたが、温暖化の影響もあり年々その地域は拡大しています。

虫痕は節の周辺の平面的な部分に出るだけで、奥まで行くことはなく、強度や耐腐朽性には問題ないことは実証されています。特に桧での被害が見立ち、正角材では土台や大引き等に転用することができますが、板材の表面に虫痕が出ると燃料用チップとなっているのが現状です。

この桧の「枝虫材」を活かした家具や空間のデザインの提案を求めます。プレゼンテーションシートによる一次審査での入選作品に対して材料を無償提供し、製作された作品をもとに入賞作品を決定し、入賞作品は市内のショールームに展示します。また、その後の権利および実物販売の実績もあります。

応募資格

東海地方で建築やインテリア等を学ぶ大学生・大学院生を主体としたグループ又は個人

スケジュール

事前説明会：

7月30日（火）17:30-18:00

（会場：名古屋市立大学北千種キャンパス芸工棟 M101）

作品提出締切：

12月13日（金）必着

一次審査結果発表：

12月21日（土）午後

「あいち木造ミーティング」にて

二次審査：2025年3月を予定

入賞作品は ITOKI NAGOYA DELA に一定期間展示予定

表彰

最優秀賞：1点（5万円）

優秀賞：1点（3万円）

特別賞：1点（2万円）

審査員

益尾 孝祐（愛知工業大学・審査員長）
太幡 英亮（名古屋市立大学・企画代表）
清水 秀丸（椙山女学園大学・主催者代表）
坂口 大史（日本福祉大学）
古川 忠稔（中部大学）
山岸 綾（中部大学）
李 燕（名古屋大学）
峰野成彦（株式会社杉生）

評価軸

実用的な提案、コンセプトualで斬新なアイデアに溢れた提案の双方を評価する。

製作条件

作者が想定した場所において、老人や子供を含めて安全に使用できるものとする。

応募条件

他のコンペ等で入選していない作者オリジナルの作品であること。

作品のサイズ

提供木材リストの中から 30 点以下程度で製作できる大きさとする。

木材リスト（樹種：桧 モルダー仕上）

- ・2,000（長さ）×120（幅）×45（厚み）
- ・2,000（長さ）×120（幅）×30（厚み）
- ・2,000（長さ）×120（幅）×15（厚み）

選考資料（プレゼンテーションシート）

各種図面やイメージパース、模型写真などを A3 サイズ 2 ページ（PDF データ）にまとめてメールにて提出する。図面のスケールは各自で任意に決めて良い。

作品提出・問合せ先

木造都市研究会「木愛の会」事務局
Email: kiainokai@gmail.com

